

科目名	文学国語		履修学年	第2学年
			履修形態	必修
			履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	「新 文学国語」(三省堂)			
使用教材 (出版社)	「新 文学国語 学習課題ノート」(三省堂) 書いて覚える漢字練習ノート(京都書房)			
学習の目標				
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。				
教科担当者から				
情景の豊かさや心情の機微を表す語句に触れ、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることを目指す。また、文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深める。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	- 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 - 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 - 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 - 文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。	- 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 - 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。 - 読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 - 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 - 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めたり、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	
評価方法	○ 重視するところ			
課題の取り組み状況	○	○	○	
提出物	○	○	○	
定期考査	○	○		
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合(%)	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準						
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			時間
			知	思	主	
前期	4	1 発想と感覚 文学の言葉を感じ取る	○		言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解すること。	B 8
				○	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えること。	
					○ 粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	
	5～6	2 読みの深まり 解釈の多様性を楽しむ	○		人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。	B 8
				○	文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察すること。	
					○ 粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	
		前期中間考査	○	○		A1
	7～8	表現プラザ 1 みんなでつながりレー小説 3 人間の姿と心 心情の表現に読みひたる	○		人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。	B 10
				○	読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫すること。	
					○ 粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	
	9	4 作品の挑戦 作家のストラテジーを読み解く	○		文学的な文章における文体の特徴や修辭などの表現の技法について、体系的に理解し使うこと。	A 8
				○	語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈すること。	
					○ 粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	
		前期期末考査	○	○		A1
後期	10	表現プラザ 2 想像からの語り 5 意味と解釈 表現の意味を捉え直す	○		言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解すること。	A 8
				○	文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にすること。	
					○ 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めること。	
		後期中間考査	○	○		A1
	11～12	6 近代の創造 近代の文章に価値を見いだす	○		文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めること。	B 8
				○	他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察すること。	
					○ 粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。	
	1	表現プラザ 3 現代に甦る歌物語	○		文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めること。	B 10
				○	文体の特徴や修辭の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫すること。	
	2～3	7 史実と虚構 歴史の語り方について考える 表現プラザ 4 誘惑する書評	○		文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めること。	B 6
				○	作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めること。	
			○		情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	
				○	文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかななどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。	
		学年末考査	○	○		A1

科目名	国語表現		履修学年	第2学年
			履修形態	必修
			履修単位	3単位
使用教科書 (出版社)	「国語表現」(大修館書店)			
使用教材 (出版社)	「国語表現 基礎練習ノート」(大修館書店)			
学習の目標				
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
教科担当者から				
国語による表現と理解の能力の育成を基本とし、伝え合う力を高めることがこの科目の中心的なねらいとなる。(伝え合う力:人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して円滑に相互伝達、相互理解を進めていく能力) また、心情を豊かにしたり、言語感覚を磨くことで、他人を思いやる心や感動する心、そして言葉の適切さや美しさについての感覚をはぐくむ。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
評価方法	○ 重視するところ			
課題の取組み状況	○	○	○	
提出物	○	○	○	
定期考査	○	○		
観点別学習評価基準 A: 十分満足できる状況 B: 概ね満足できる状況 C: 努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合(%)	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準						
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			時間
			知	思	主	
前期	4	1 言葉と出会う	○		言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解し、言葉や表記の大切さを理解している。	B 4
				○	「書くこと」において、伝えたいことを明確に伝えるために、係り受けや文末表現の統一に留意し、表現のしかたを工夫してい	
					○「表記クイズ」を解くことをとおして、正しい表記や語彙を豊かにすることについて積極的に取り組もうとしている。	
	5～6	2 伝える、伝え合う	○		話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。	A 8
				○	目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。	
					○コミュニケーションの楽しさを知り、積極的にコミュニケーションに取り組もうとしている。	
		前期中間考査				－
	7～8	3 小論文・レポート入門		○	目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組合せなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。	B 10
					○小論文と作文の違いをふまえ、小論文らしい文章を書くことに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。	
				○	目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組合せなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。	
	9	4 自己PRと面接	○		言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。	B 14
				○	自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫している。	
					○効果的な自己PRをすることに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。	
		前期期末考査	○	○		B1
後期	10	5 メディアを駆使する	○		話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。	B 12
				○	自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現のしかたを工夫している。	
					○さまざまな通信文の使い分けや、手紙の書き方に興味をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	
		後期中間考査				－
	11～12	6 会話・議論・発表	○		話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。	A 12
				○	相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。	
					○相手や場面に応じた会話をすることに興味をもち、意欲的に活動に取り組もうとしている。	
	1			○	論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現のしかたを評価するとともに、聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりしている。	
				○	互いの主張や論拠を吟味したり、話合いの進行や展開を助けたりするために発言を工夫するなど、考えを広げたり深めたりしながら、話合いのしかたや結論の出し方を工夫している。	
	2～3	読書のひろば	○		自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。	B 8
				○	目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。	
				○	視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	
					○読書に興味をもち、意欲的に読書に取り組もうとしている。	
		学年末考査	○	○		B1

科目名	地理総合	履修学年	第2学年	
		履修形態	必修	
		履修単位	2単位	
使用教科書 (出版社)	地理総合（東京書籍） コンパクト地理総合地図（二宮書店）			
使用教材 (出版社)	地理総合ワークノート（東京書籍）			
学習の目標				
①現代世界の地理的事象を系統地理的に考察し、地理的な課題の解決に向けて構想する力や、考察、構想したことを効果的に説明し、それらを基に議論する力を養う。 ②地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。 ③地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きるための自覚と資質を養う。				
教科担当者から				
英語を学べば世界の人と会話ができる。家庭科を学べば生きる術と知識が得られる。地歴公民科の場合はどうでしょうか。担当者は「今、いったいこの世界の何が問題なのか」を知ることができるという魅力がある、と考えます。得られるものは、すぐに役立つ解決の「方法」ではないかもしれませんが、しかし、この未完成で発展途上の人間社会において、世界の人々を苦しめるたくさんの問題はいったいなぜ起こってしまったのか。私たちは、この世界と私たちの暮らしを、ほんの少しでも良くするために、何をしていくべきなのか。地理総合は、世界各地の自然と社会の様子をみながら、そのもとでつくられてきたこの世界の姿を明らかにしていく科目です。ここから、世界を見渡す力を養ってほしいと思います。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	○地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。 ○地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。	○地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚が深まっている。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の観察			○	
課題の取り組み		○	○	
提出物	○		○	
定期考査	○	○		
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B	C	
評価割合（％）	100～85	84～30	29～0	
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準								
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間	
			知	思	主			
前期	4	第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 第1章 私たちが暮らす世界	○			地軸の傾きや自転・公転による影響を理解する。	6	
			○	○		地球上には常に昼と夜が存在することを理解し、時差の影響やそれに対する工夫を考える。		
			○			地図にはさまざまな種類が存在することについて理解する。		
				○	○	地球を平面の地図では正確に表現できないことを理解し、地図の種類に応じた用途の多様性を考える。		
			○			日本の位置と領域について理解する。		
			○		○	排他的経済水域について理解し、その重要性について考える。		
	5	第2章 地図や地理情報システムの役割 第3章 資料から読み取る現代世界	○			私たちの生活にさまざまな地図が利用されていることを理解す	8	
				○		主題図の表現方法の特徴を理解し、用途に応じてどのように使い分けるのかを考察する。		
				○	○	地理情報システム（GIS）が幅広い分野で使われていることについて理解し、私たちの生活への影響を考える。		
			○	○		交通手段の多様性とその長所・短所について理解し、交通手段の発達による生活の変化を考える。		
			○	○		通信情報技術（ICT）の発達について理解し、通信網の発達による生活の変化と生じた課題について考える。		
			○			世界の貿易とさまざまな地域経済圏について理解する。		
			前期中間考査	○	○			1
	6, 7	第2編 国際理解と国際協力 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境 1節 生活文化の多様性と国際理解 2節 生活文化と自然環境①地形	○			地域によって文化が異なる理由について理解する。	10	
			○			世界の宗教の分布や、宗教ごとに特徴的な生活習慣や規範があることを理解する。		
			○			山地におけるさまざまな暮らしの工夫について理解する。		
			○			河川がつくる平野の小地形について理解する。		
			○	○		宅地化による伝統的な土地利用の変化が、どのような影響をもたらしているかを理解する。		
			○			さまざまな海岸の地形とその利用について理解する。		
	8, 9	3節 生活文化と自然環境②気候	○			大気の大循環によって生じる気圧帯について理解する。	10	
			○		○	気温や降水量に地域差が生じる原因を理解し、それらが衣食住に与える影響を考える。		
			○	○		熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯の各気候区における気温・降水量、風などの気候要素の特徴について理解する。		
				○	○	熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯における土壌や植生の特徴を理解し、人々の生活や文化に与える影響を考える。		
		前期期末考査	○	○			1	
後期	10	4節 生活文化と産業	○			自然環境、社会環境の面から、食生活の地域差について理解す	8	
			○			労働集約的な工業の立地が移動する理由を理解する。		
				○		新興工業国と先進国との工業に違いが生じる理由について理解す		
				○		商業の立地の違いについて、インターネットの普及により、商業にどのような変化が生じたのかを理解する。		
			○			通信産業の発展による世界の変化、産業の情報化について理解す		
				○	○	情報化社会における働き方について考える。		
	11	第2章 さまざまな地球的課題と国際協力 1節 地球環境問題 2節 資源・エネルギー問題 3節 人口問題		○	○	生産・消費活動により環境問題が発生することを理解し、解決に向けた取り組みを考える。	8	
				○	○	森林の減少や砂漠化が人間の活動によって引き起こされていることを理解し、改善に向けた取り組みを考える。		
			○		○	新興国のエネルギー需要の増加を理解し、資源をめぐる対立が生じる要因を考える。		
				○		再生可能エネルギーへの関心が高まった背景を理解し、再生可能エネルギーの割合が拡大しない要因を考える。		
			○	○		発展途上国が抱える人口問題を理解し、その要因・影響を考え		
			○	○		先進国において少子高齢化が進む背景とその影響について理解す		
			○		○	少子高齢化対策として先進国で行われている取り組みを理解し、その成果や課題を考える。		
			後期中間考査	○	○			1
	12, 1	4節 食料問題 5節 居住・都市問題 6節 民族問題 7節 持続可能な社会の実現をめざして	○	○		食料問題が生じる背景について理解する。	8	
			○			発展途上国の大都市における生活や都市環境の変化から居住問題について理解する。		
			○			先進国の都市化と郊外化、そして都市再開発までの動きとそれぞれの背景について理解する。		
			○	○		ヨーロッパで起こった難民危機を手がかりに、難民と民族問題について理解し、難民が発生する原因や、民族問題の背景について		
			○	○		地球規模で取り組むべき課題が、相互に関連しあっていることを理解する。		
				○	○	先進国と発展途上国の対立などの課題があることを理解し、持続可能な開発のための解決法を考える。		
	2, 3	第3編 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境の特色 2節 さまざまな自然災害と防災 第2章 生活圏の調査と地域の展望	○			日本の地形の特徴が河川や海岸の特徴にどのような影響を与えているかを理解する。	7	
○					日本の春夏秋冬それぞれの季節を特徴づける天候・気候の要因を理解する。			
○			○	○	過去の災害の記録が今後の災害の軽減につながることを理解し、ハザードマップを利用し、身近な地域の自然災害の可能性を読み			
○			○		季節によって発生しやすい気象災害とその特徴について理解し、要因・影響について考える。			
			○	○	これまでの災害の教訓を生かし、特に、自助・共助に関して、どのような対策を講じていくべきかを考える。			
○			○		身近な地域の変遷を新旧地形図の読み取りなどから理解する。			
		防災学習		○	○		1	
		学年末考査	○	○			1	

教科 科目 単位数	地理歴史 日本史探究 3	受信校	北海道標準高等学校	学科 学年（年次） 履修・実施	普通科 第二学年 選択・一斉
教科書 副教材	「精選日本史探究」（実教出版） 「図説日本史通覧」（帝国書院）「精選日本史探究 演習ノート」（実教出版）				

1 目標

- ①我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ②我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ③我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

（高等学校学習指導要領（平成30年告示）より）

2 学習のポイント

- (1)年間を通して遠隔授業となります。オリエンテーション時に何点が注意事項を説明しますので、特性を理解したうえで授業に臨んでください。
- (2)遠隔授業では Google workspace を資料の配布、読み取り、課題の提出などさまざまな場面で利用します。操作については都度説明しますので、慣れてください。
- (3)適宜、ペアワークやグループワークを行います。相手の意見や主張を尊重しつつ、自らの意見や主張を積極的に発信していきましょう。
- (4)教科の特性上、学習事項が多岐にわたります。受け身な姿勢だけではなく、ぜひ主体的に学ぶようにしてください。わからないことがあったら Google classroom などを活用して積極的に質問してください。

3 学習の評価

(1) 評価の観点と規準

次の3つの観点に基づいて内容や時間のまとまりごとに「A・B・C」の3段階で評価を行い、学年末に5段階評定へと総括します。

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。

(2) 評価方法と観点の関連等

	評価方法\観点	①	②	③	主な対象
ア	学習活動の観察	○	○	◎	学習活動の取組、提出物の記述等
イ	ワークシート	◎	◎	○	ワークシートへの記述等
ウ	発表	◎	○	○	グループワーク等での活動の発表等
エ	テスト	◎	○		定期考査や確認テスト等
総括時の比率		1	1	1	

4 その他

- (1)年度内に数回、教科担任が皆さんの学校に赴いて対面授業を行う予定です。
- (2)授業者が現地にいない分、皆さんの積極的な活動がより一層重要になります。メリハリをもって活動したり、わからないところを互いに教え合ったりすることは特に重要です。ぜひ、一緒に授業を「作っていく」つもりで参加してください。
- (3)授業について、不安なことや気になること、配慮して欲しいことなどがあれば、可能な範囲で個別対応します。直接相談しにくい場合は、Google classroom などを活用して教科担任へ申し出る、もしくは自身の学校の先生へ伝言するなどしてください。

5 年間授業計画 (計105時間)

月	○章立て	配当	【学習領域】 ・主な学習内容 ◇考查	目標・ねらい	観点ごとの 主な評価の対象 ①知識・技能 ②思考・判断・ 表現 ③主体的に学習 に取り組む態度
4	○オリエンテーション	1	・ガイダンス	・科目の目標や年間計画を理解する。	
	第1編 原始・古代の 日本と東アジア ○第1章 国家と文化の形成	6	・旧石器時代 ・縄文時代 ・弥生時代 ・古墳時代	・人類が日本列島で生活を営みはじめた時代からヤマト政権の形成までを扱い、原始・古代がどのような時代であったかを東アジア世界の動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにする。	① 定期考查や提出物の記述等 ② ワークシートへの記述、グループワーク等での活動等 ③ 毎時の取組状況、振り返りシートなどの記入状況等
				・旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立に至る時期の日本列島の歴史的環境と文化の形成とを関連付けて時代の転換を理解し、原始社会の特色や古代の国家や社会との関わりについて多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。	
5	○第2章 古代国家の確立	10	・飛鳥時代 ・奈良時代 ・平安時代	・飛鳥時代から平安時代末までを扱い、古代がどのような時代であったかを東アジア世界の動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにする。	① 定期考查や提出物の記述等 ② ワークシートへの記述、グループワーク等での活動等 ③ 毎時の取組状況、振り返りシートなどの記入状況等
				・古代の国家や社会の展開について、主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを、根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の育成を図りつつ、古代の日本の国家・社会の展開について理解する。	
6	第2編 中世の日本と 世界 ○第3章 中世社会の成立	12	◇前期中間考查 ・平安時代 ・鎌倉時代	・平安時代末から鎌倉時代末までの歴史について、中世がどのような時代であったかを東アジアやユーラシアの動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにする。	① 定期考查や提出物の記述等 ② ワークシートへの記述、グループワーク等での活動等 ③ 毎時の取組状況、振り返りシートなどの記入状況等
				・古代から中世への歴史の転換と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、対外的な環境や交流、前の時代との比較などを通して時代の転換について多面的・多角的に考察し、探究に向けた時代を通観する問いを表現する。	
7	○第4章 中世社会の展開	10	・室町時代	・室町時代から戦国時代までを扱い、中世がどのような時代であったかを東アジアやユーラシアの動向と関連付けて考察し、総合的にとらえて理解できるようにする。	① 定期考查や提出物の記述等 ② ワークシートへの記述、グループワーク等での活動等 ③ 毎時の取組状況、振り返りシートなどの記入状況等
8		5		・中世社会の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、対外的な環境や交流、前の時代との比較などを通して時代の転換について多面的・多角的に考察し、中世の日本の国家・社会の展開について理解する。	
9	第3編 近世の日本と 世界 ○第5章 統一政権の成立	12	◇前期期末考查 ・安土・桃山時代 ・江戸時代（前期）	・織豊政権の成立前後からの歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解している。	① 定期考查や提出物の記述等 ② ワークシートへの記述、グループワ
				・織豊政権の成立前後からの歴史の展開と	

				歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。	ーク等での活動等 ③毎時の取組状況、 振り返りシートな どの記入状況等
1 0	○第6章 幕藩体制の展開	13	・江戸時代（中期） ・江戸時代（後期）	・武断政治から文治政治への転換、江戸三大改革について学習し、幕藩政治の性質の転換に対する背景、それぞれの改革の特色と影響について多面的・多角的に考察する。 ・近世の国家や社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、近世がどのような時代であったかを理解する。	①定期調査や提出物の記述等 ②ワークシートへの記述、グループワーク等での活動等 ③毎時の取組状況、 振り返りシートな どの記入状況等
1 1	第4編 近現代の地域・日本と世界 ○第7章 大日本帝国の形成	8	・江戸時代（末期） ・明治時代（前期） ◇後期中間考査	・対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などをもとに、近世から近代への時代の転換を理解する。 ・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。	①定期調査や提出物の記述等 ②ワークシートへの記述、グループワーク等での活動等 ③毎時の取組状況、 振り返りシートな どの記入状況等
1 2	○第8章 大日本帝国とデモクラシー	9	・明治時代（後期） ・大正時代	・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、特に時代の転換に着目して表現する。 ・日清・日露戦争、第一次世界大戦について、日本の国際的な地位の変化、戦争の推移や展開を考察し、それぞれの講和条件などから国際秩序と我が国の関わりを理解する。	①定期調査や提出物の記述等 ②ワークシートへの記述、グループワーク等での活動等 ③毎時の取組状況、 振り返りシートな どの記入状況等
1	○第9章 アジアの戦争と第二次世界大戦	5	・大正時代 ・昭和時代（戦前・戦中） ◇後期期末考査	・近代から敗戦に至る国家や社会の展開について、主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などについて根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の育成を図りつつ、近現代がどのような時代であったかを構造的に捉える。	①定期調査や提出物の記述等 ②ワークシートへの記述、グループワーク等での活動等 ③毎時の取組状況、 振り返りシートな どの記入状況等
2		9		・近世から近代への転換の理解や時代を通観する問い、近代を展望する仮説を踏まえるとともに、近現代の地域・日本と世界の相互の関係を構造的に整理し、多様な視点から歴史に関わる諸事象について深く理解する。	
3	○第10章 現代日本社会の形成と展開	5	・昭和時代（戦後） ・平成、令和の日本	・戦後から現代に至る国家や社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などについて根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の育成を図りつつ、現代がどのような時代であったかを構造的に捉える。	①定期調査や提出物の記述等 ②ワークシートへの記述、グループワーク等での活動等 ③毎時の取組状況、 振り返りシートな どの記入状況等

教科 科目 単位数	公民 倫理 2	受信校	北海道標津高等学校	学科 学年（年次） 履修・実施	普通科 第2学年 選択・一斉
教科書 副教材	「新倫理」（清水書院） 「高等学校 新倫理ワークノート」（清水書院）				

1 目標

人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。
- (3) 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。

（高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）より）

2 学習のポイント

- (1) オリエンテーション時に示す「授業のルール」を守り、積極的に活動に取り組んでください。
- (2) 基本的には準拠ノートを活用しますが、ワークシート等を配布する場合があります。
- (3) みなさんの主体的で対話的な学びを期待していますので、自分の出来る範囲で様々な活動にチャレンジしてみましょう。

3 学習の評価

- (1) 評価の観点とその趣旨

次の3つの観点に基づいて内容や時間のまとまりごとに「A・B・C」の3段階で評価を行い、学年末に5段階評定へと総括します。

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
・古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。 ・諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめることができる。	・自立した人間として、他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索することができる。 ・現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、説明できる	・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。 ・多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めている。

- (2) 評価方法と観点との関連（◎＝特に関連の深いもの）

	評価方法\観点	①	②	③	主な対象
ア	学習活動の観察	○	○	◎	学習活動の取組、提出物の記述等
イ	ワークシート	◎	◎	○	ワークシートへの記述等
ウ	発表	◎	○	○	授業内での表現活動等
エ	テスト	◎	○		定期考査や確認テスト等
総括時の比率		1	1	1	

4 その他

<遠隔授業について>

- (1) 授業者は対面授業時を除き、基本的に配信校から授業をします。授業中の質問や疑問等については随時対応しますが、申し出にくい場合などについては、教室にいる受信担当の先生に申し出ても構いません。
- (2) 授業時間を充実した楽しい時間にするためには、皆さんの主体的な活動が大切になります。メリハリをもって活動したり、わからないところを互いに教え合ったりすることも特に重要です。ぜひ、一緒に授業を「作っていく」つもりで参加してください。
- (3) その他の遠隔授業の特性についてはオリエンテーション時に説明します。

<学習の支援について>

授業について、不安なことや気になること、配慮して欲しいことなどがあれば、可能な範囲で個別対応します。直接相談しにくい場合は、クラスルームやワークシートに書いてもらっても構いません。

5 年間授業計画 (計 70 時間)

月	○題材 ●主な教材	配当 (時)	【学習領域】 主な学習内容 □対面授業 ◇テスト等	目標・ねらい	観点ごとの 主な評価の 対象 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
4	○オリエンテーション	1	1 ガイダンス	・ 科目の目標や年間計画を理解する。	
	○第 1 編 現代を生きる自己の課題 ●第 1 章 個性的な主体としての自己 ●第 2 章 心と行動をめぐる探究	3	1 心の機能と個性 2 パーソナリティの形成と「私」 1 人間の活動を支える心 2 認知のしくみ 3 生涯にわたる発達	・ さまざまな人間観の理解を通して人間の多様な在り方に思索を向けさせるとともに、人間存在への問いから現代の諸課題を探究することを理解させる。 ・ 心のあり方を科学的に探究してきた心理学の知見を手がかりに、個性やパーソナリティに着目して、青年期の課題を踏まえ豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深める。 ・ 心のあり方を科学的に探究してきた心理学の知見を手がかりに、欲求や感情、認知、発達に着目して、青年期の課題を踏まえ豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深める。	① 定期考査や提出物の記述等 ② ワークシートへの記述、グループワーク等での活動等 ③ 毎時の取組状況、振り返りシートなどの記入状況等
5	○第 2 編 人間としての自覚 ●第 1 章 哲学の始源:ギリシア思想 ●第 2 章 唯一神の宗教:キリスト教・イスラーム教	8	1 神話から哲学へ 2 知と徳をめぐる問い 3 理想主義的なあり方 4 現実主義的なあり方 5 幸福をめぐる問い □対面授業 第 1 節 愛の教えーキリスト教 1 ユダヤ教 2 イエスの思想 3 世界宗教への展開 第 2 節 戒律と平等の教えーイスラーム教	・ 西洋社会の根幹にあり、現代の合理主義の由来となる古代ギリシアの思想の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 ・ 古代ギリシアの理性をもつ人間という人間観の理解を通して、自分の考えを論理的、批判的に吟味する力や対話する力などを身につけることが大切であることを自覚させる。 ・ ソクラテスの思索が人間としての自覚の第一歩であることを自覚させ、各自の人生への問いと結び付けて考察させる。 ・ プラトン、アリストテレス、ヘレニズムの思想が人間の存在や価値をいかに論じたかを理解させ、良識ある公民とはいかに在るべきか、いかに生きるべきかという自己の課題について、多面的・多角的に考察させる。 ・ 世界宗教としてのキリスト教とイスラーム教の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 ・ ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教の一神教が神と人間の関係をどのように捉えたか、相互の比較を通して理解を深める。 ・ キリスト教の原罪や恩寵を特徴とする人間観や神の愛や隣人愛の理解を通して、自己の課題と結び付けて考察させる。	① 定期考査や提出物の記述等 ② ワークシートへの記述、グループワーク等での活動等 ③ 毎時の取組状況、振り返りシートなどの記入状況等

				・イスラーム教の宗教的な義務や戒律などの倫理に関する諸概念の理解を通して、共同体の在り方や人間相互のつながりについて自己の課題と結び付けて考察させる。 ・世界宗教としての仏教の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。	
			◇前期期末考査		
6 ／ 7	●第3章 東洋思想の源流：仏教・儒教	7	第1節 智恵と慈悲の教え—仏教 1 バラモン教 2 仏陀の思想 3 仏教とその後の展開 第2節 仁と礼の教え—儒教 1 儒家の教え 2 儒教の展開 3 道家の思想	・仏教の人間観や人生観を理解し、生の苦悩とその克服といった課題を、自己の課題と重ね合わせて考察させる。 ・仏教の生命あるもの全てに対する慈悲の教えを通して、共同体の在り方や人間相互のつながりについて自己の課題と結び付けて考察させる。 ・孔子や孟子の言行や宋学の思想の理解を通して、人間についての見方や、望ましい人間関係の在り方について自己の課題と結び付けて思索を深める。 ・老子や荘子の思想における人間観を理解し、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 ・現代社会を根本から考えなおすための手掛かりとして、西洋の近代の特徴を理解させる。	①定期考査や提出物の記述等 ②ワークシートへの記述、グループワーク等での活動等 ③毎時の取組状況、振り返りシートなどの記入状況等
	○第3編 現代をかたちづくる倫理 ●第1章 近代の成立 ●第2章 世界と人間をめぐる探究	6	第1節 人間の尊厳 1 ルネサンスとヒューマニズム 2 宗教改革と人間の内面 3 人間の偉大と限界 第2節 真理の認識—経験論と合理論 1 近代科学の思考法 2 事実と経験の尊重—ベーコン	・合理化や進歩、進化という概念から現代の諸課題を考察させる。 ・人間の尊厳を論じたルネサンス、宗教改革、モラリストの思想を通して、幸福、愛、徳に着目して、人生への問いや人間の存在や価値について、自己の課題と結び付けて考察させる。 ・自然と人間との関わりや世界を捉える知の在り方を論じた近代科学の思考法、経験論と合理論を通して、真理や存在に着目して、人間の認識と経験を考察させる。	①定期考査や提出物の記述等 ②ワークシートへの記述、グループワーク等での活動等 ③毎時の取組状況、振り返りシートなどの記入状況等
8 ／ 9		10	3 理性の光—デカルト 第3節 民主社会と倫理 1 社会契約説と啓蒙思想 2 人格の尊厳と自由—カント 3 自己実現と自由—ヘーゲル 4 幸福と功利 5 創造的知性と幸福 4節 現代社会と個人 1 資本主義社会への批判 2 人間存在の地平—実存主義 3 世界と存在そのもの—現象学 4 公共性と正義 5 社会参加と他者への奉仕	・民主社会と人間の在り方や人間の尊厳、自己実現と幸福を論じた近代の諸思想を通して、善、正義、義務に着目して、自己の価値観を確立するとともに他者の価値観を尊重することの大切さを理解し、社会の在り方と人間としての在り方生き方について考察させる。 ・民主社会における人間の在り方を論じた現代の諸思想を通して、善、正義、義務などに着目し、社会の在り方と人間としての在り方生き方について考察させる。 ・自己実現と幸福を論じた実存主義の思想を通して、幸福、愛、徳に着目し、人生への問いや人間の存在や価値について自己の課題と結び付けて考察させる。 ・世界を捉える知の在り方を論じた現象学を通して、真理、存在に着目し、世界	①定期考査や提出物の記述等 ②ワークシートへの記述、グループワーク等での活動等 ③毎時の取組状況、振り返りシートなどの記入状況等
			◇前期期末考査		

			第5節 近代の世界観・人間観の問いなおし 1 理性主義への反省 2 言語論的転回 3 科学観の転換	と人間の在り方について自己の課題と結び付けて考察させる。 ・社会参加と奉仕を実践した先人たちの事例を通して、善、正義、義務に着目し、主体的に社会に参加することの大切さについて理解を深めさせる。 ・近代の世界観や人間観を問い直す知見を備えた現代の諸思想を通して、真理、存在に着目し、世界と人間の在り方について考察させる。	
10 / 11 / 12	○第4編 国際社会に生きる日本人としての自覚 ●第1章 日本の風土と精神文化	19	第1節 日本人の人間観・自然観・宗教観 1 風土と日本人の生活 2 日本における神の観念 3 神と仏の出会い 第2節 日本人の仏教受容 1 古代仏教の思想 2 鎌倉仏教の思想 ◇後期中間考査 第3節 近世社会の思想 1 儒教の伝来と朱子学 2 陽明学 3 古学 4 国学と日本文化 5 近世庶民の思想 6 近代的国家への道 □対面授業	・日本人の人間観、自然観、宗教観の特質を、日本人の心情や考え方や風土との関わり、また日本的な美意識や自然との関わりに着目して、日本人としての自己意識と結び付けて、理解させる。 ・外来思想である仏教を、日本独自の受容やその思想の形成と発展を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解させる。 ・外来思想である儒教を、江戸時代における儒学諸派の形成を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解させる。 ・古代の精神の究明に努めた国学が、古代の日本人の心情と考え方をどのように捉えたかを理解させる。 ・近世庶民の思想や幕末の思想が、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解させる。	①定期考査や提出物の記述等 ②ワークシートへの記述、グループワーク等での活動等 ③毎時の取組状況、振り返りシートなどの記入状況等
1 / 2 / 3	●第2章 日本の近代化と人々の生き方 ○第5編 現代における諸課題の探究 ●第1章 自然や科学技術をめぐる諸課題 ●第2章 社会や文化にかかわる諸課題	16	第1節 西洋近代精神の摂取 1 啓蒙思想家の活動 2 国家と個人の衝突 第2節 近代的個人の自覚 1 近代的自我の成立と個人主義 第3節 主体的な生き方と価値観の模索 1 近代日本の哲学者 2 近代日本の思想傾向への反省 3 現代日本と私たちの課題 ◇後期期末考査 第1章 1 環境と倫理 2 生命と倫理 3 科学技術の発展とその課題 第2章 1 文化や宗教の多様性と倫理 2 国際平和と人類の福祉	・西洋文化を摂取し、新しい文化や思想を形成した思想家たちを通して、現代を生きる日本人の思想形成にどのような影響を与えているかを理解させる。 ・日本人の人間観、自然観、宗教観の特質を、民俗学の知見を手掛かりに、日本人としての自己意識と結び付けて、理解させる。 ・先哲を含む他者との対話を通して、生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述させる。 ・先哲を含む他者との対話を通して、福祉、文化と宗教、平和などについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述させる。	①定期考査や提出物の記述等 ②ワークシートへの記述、グループワーク等での活動等 ③毎時の取組状況、振り返りシートなどの記入状況等

科目名	数学A	履修学年	第2学年	
		履修形態	必修	
		履修単位	3単位	
使用教科書 (出版社)	数学A　E s s e n c e　（東京書籍）			
使用教材 (出版社)	E s s e n c e　B u d d y　C A T C H　数学A（東京書籍）			
学習の目標				
図形の性質，場合の数，数学と人間の活動と確率について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。				
教科担当者から				
・教科書・ワーク・プリントを中心に授業を進める。必ず，毎回持参すること。 ・板書をしっかりと取り，授業に集中すること。 ・授業中にプリントを配布するので，ファイルに整理し，提出できるようにしておくこと。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規　準	・図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	・図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見だし，論理的に考察する力を身に付けている。 ・不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身に付けている。 ・数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見だし，数理的に考察する力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。	
評価方法	○　重視するところ			
学習の状況の観察			○	
提出物		○	○	
小テスト 単元テスト	○	○		
定期考査	○	○		
振り返りシート			○	
観点別学習評価基準　A：十分満足できる状況　　B：概ね満足できる状況　　C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B	C	
評価割合（％）	100～85	84～30	29～0	
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4	オリエンテーション					1
	5	1章 場合の数と確率					
		1節 場合の数					
		1 集合	○			部分集合、共通部分、和集合、空集合、全体集合、補集合などの用語、記号を理解し、記号や図を用いて表すことができる。	1
		2 集合の要素と個数	○	○	○	補集合、和集合について、集合の要素の個数を求めることができる。	2
		3 数え上げ之原則	○			和の法則や積の法則について、具体例を用いて理解し、場合の数を効率よく求めることができる。	1
		4 順列	○			樹形図を利用して順列の意味を理解し、その総数を求めることができる。	3
		5 順列の利用	○			順列の考え方を利用して、いろいろな場合の数を求めることができる。	2
		6 重複順列		○	○	重複順列について理解し、その総数を求めることができる。	2
		7 円順列	○			円順列について理解し、その総数を求めることができる。	1
		8 組合せ	○	○	○	組合せの意味を理解し、その総数を求めることができる。	3
		9 組合せの利用		○	○	組合せの考え方を利用して、いろいろな場合の数を求めることができる。	2
		単元テスト①	○	○	○		1
	6	(前期中間考査)	○	○	○		1
	7	2節 確率					
		1 確率の意味	○	○	○	試行と事象、事象の確率について学び、確率の意味を知り、基本的な確率を求めることができる。	3
		2 確率の計算	○	○	○	場合の数を基に、確率を求めることができる。また、確率の加法定理を理解し、和事象の確率を求めることができる。さらに、余事象を利用して確率を求めることができる。	5
		3 独立な試行の確率	○			独立な試行の意味を理解し、簡単な独立な試行の確率を求めることができる。	2
		4 反復試行の確率	○			反復試行の意味を理解し、簡単な場合の反復試行の確率を求めることができる。	3
		5 条件付き確率	○	○	○	条件付き確率の意味を理解する。また、確率の乗法定理を理解し、活用できる。	3
		6 期待値	○	○	○	期待値を求めることができる。また、期待値を意思決定に活用することができる。	3
		単元テスト②	○	○	○		1
		2章 図形の性質					
		1節 三角形の性質					
		1 三角形と比	○	○	○	三角形と比の定理を理解し、それを用いて線分の長さを求めることができる。	2
		2 角の二等分線と比	○	○	○	線分の内分、外分、三角形の角の二等分線と線分の比に関する定理を理解し、それらを用いて線分の長さを求めることができる。	2
		3 三角形の重心・外心・内心	○	○	○	三角形の重心、外心、内心の性質を利用して、線分の長さや角の大きさを求めることができる。	4
		単元テスト③	○	○	○		1
	8	(前期期末考査)	○	○	○		1
	9	2節 円の性質					
		1 円周角の定理	○			円周角の定理を理解し、それを用いて角の大きさを求めることができる。また、円周角の定理の逆を用いて、4点が同一円周上にあるかどうか判断することができる。	2
		2 円に内接する四角形	○			円に内接する四角形の性質を理解し、それを用いて角の大きさを求めることができる。また、四角形が円に内接する条件を利用して、四角形が円に内接するかどうか判断することができる。	3
		3 円と直線	○	○	○	円の接線の性質、接線の長さについて理解し、それらを利用して、接線の長さや三角形の辺の長さを求めることができる。	3
後期	10	4 接線と弦のつくる角	○	○	○	接線と弦のつくる角の定理を理解し、それを用いて、角の大きさを求めることができる。	2
		5 法べきの定理	○			円と2本の直線がつくる線分の長さの関係を考察し、法べきの定理が成り立つことを理解し、それを用いて線分の長さを求めることができる。	2
		6 2つの円	○			2つの円の位置関係を理解し、共通接線の数を求めることができる。	2
		単元テスト④	○	○	○		1
	11	3節 空間図形					
		1 直線や平面の位置関係	○			2直線、2平面、直線と平面の位置関係を理解する。	5
		2 多面体		○	○	多面体、正多面体を理解し、空間図形に対する見方を豊かにする。	2
		単元テスト⑤	○	○	○		1
		(後期中間考査)	○	○	○		1
	12	3章 数学と人間の活動					
		1節 数える					
		1 記数法		○	○	古代エジプトの記数法や漢数字による記数法の欠点を理解し、5個ずつまとめるという規則で、そのような欠点のない記数法ができないか考察する。	2
		2 5進法	○			5進法について理解し、5進法と10進法の変換を行うことや、5進法と10進法を対比して見ること、記数法に対する理解を深める。	3
		3 n進法	○	○	○	5進法、10進法の考えを一般化したn進法について理解し、その一例である2進法については、10進法との変換もできるようにする。	3
		単元テスト⑥	○	○	○		1
	1	2節 測る・量る					
		1 端数の測定の工夫	○		○	互除法が、2つの量について、その2つの量を両方とも割り切る量を求める方法であることを理解する。	2
		2 ユークリッドの互除法	○	○	○	ユークリッドの互除法を理解し、これを用いて2つの正の整数の最大公約数を求めることができる。	3
		3 ユークリッドの互除法の利用		○	○	和算に見られる測定の工夫が、ユークリッドの互除法から導かれることについて理解する。	3
		単元テスト⑦	○	○	○		1
		(学年末考査)	○	○	○		1
	2	3節 位置を示す					
		1 平面上の位置を示す	○	○	○	平面上の点の位置を表す座標の考え方を理解する。	2
		2 空間内の位置を示す	○		○	平面上の座標の考えを空間内の座標へ拡張し、それを利用して、ペンローズの三角形などのふしぎな図について考察する。	2
		3 座標のよさ		○	○	3D CGへの利用を見ることで、空間座標のよさを知る。	1
		単元テスト⑧	○	○	○		1
		(学年末考査)	○	○	○		1
	3	4節 遊ぶ					
		1 数で遊ぶ		○	○	覆面算を解くことで、順序立てて考えることのよさを知る。	1
		2 図形で遊ぶ		○	○	カリの三角形について調べることで、座標のよさを知る。	1
		3 規則性で遊ぶ		○	○	ハノイの塔の問題を解くことで、規則性を考えることのよさを知る。	1
		4 論理で遊ぶ		○	○	帽子の色当てパズルを解くことで、論理的に考えることのよさを知る。	1
		単元テスト⑧		○	○		1
		防災学習	○	○	○		1

科目名	数学Ⅱ		履修学年	第2学年
			履修形態	選択
			履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	数学Ⅱ　E s s e n c e　（東京書籍）			
使用教材 (出版社)	E s s e n c e　B u d d y　C A T C H　数学Ⅱ（東京書籍）			
学習の目標				
方程式・式の証明，図形と方程式，三角関数について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。				
教科担当者から				
・教科書・ワーク・プリントを中心に授業を進める。必ず，毎回持参すること。 ・板書をしっかりと取り，授業に集中すること。 ・授業中にプリントを配布するので，ファイルに整理し，提出できるようにしておくこと。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
規　準	・いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。		・数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力を身に付けている。 ・座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力を身に付けている。 ・関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力を身に付けている。 ・関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善しようとしたりしている。
評価方法	○　重視するところ			
学習の状況の観察				○
提出物			○	○
単元テスト	○		○	
振り返りシート				○
観点別学習評価基準　A：十分満足できる状況　　B：概ね満足できる状況　　C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4	オリエンテーション					1
	5	1 章 方程式・式と証明					
		1 節 多項式・分数式の計算					
		1 3 次の乗法公式と因数分解	○			3 次の乗法公式と因数分解の公式について理解し、それらを用いて計算することができる。	1
		2 二項定理	○	○	○	パスカルの三角形と $(a+b)^n$ の展開式における各項の係数について考察し、二項定理を用いて、式を展開することができる。	2
		3 分数式とその計算	○	○		分数式とその約分と通分、四則計算について、数の四則計算と関連付けて理解し、その計算ができる。	3
		単元テスト①	○	○	○		1
		2 節 2 次方程式					
		1 複素数	○	○		虚数、複素数について理解し、数を拡張することに興味をもつ。さらに、複素数の計算ができる。	3
		2 2 次方程式	○	○		すべての 2 次方程式を解くことができる。また、2 次方程式の判別式について理解し、解を判別することができる。	1
		3 解と係数の関係	○	○	○	2 次方程式の解と係数の関係について理解し、与えられた 2 数を解とする 2 次方程式を求めることができる。	3
		4 2 次関数のグラフと 2 次方程式	○	○		2 次関数のグラフと 2 次方程式の解の関係を理解し、グラフと x 軸の位置関係を調べることができる。また、式の見方を豊かにするとともに、グラフを活用することのよさを認識する。	1
		単元テスト②	○	○	○		1
	6	(前期中間考査)					0
	7	3 節 高次方程式					
		1 多項式の除法	○	○		多項式の除法について、数の除法と関連付けて理解し、商と余りの関係を表すことができる。	2
		2 因数定理	○			剰余の定理と因数定理について理解し、多項式の除法や因数分解に関して、それらを利用することができる。	2
		3 高次方程式	○			高次方程式について理解し、因数分解、因数定理を用いて、高次方程式を解くことができる。	2
		4 高次方程式の利用		○	○	身近な問題を解決することに、高次方程式を活用することができる。	1
		単元テスト③	○	○	○		1
		4 節 式と証明					
		1 等式の証明	○	○		左辺と右辺をそれぞれ計算することで、等式を証明し、論理的な思考力を養う。	2
		2 不等式の証明		○	○	左辺と右辺の差や左辺の 2 乗と右辺の 2 乗の差をとることで、不等式を証明し、論理的な思考力を養う。また、相加平均と相乗平均の間に成り立つ関係について理解し、それを用いて不等式を証明することができる。	3
		単元テスト④	○	○	○		1
	8	(前期期末考査)					0
後期	9	2 章 図形と方程式					
	10	1 節 座標と直線の方程式					
		1 座標と 2 点間の距離	○	○	○	数直線上の 2 点間の距離を求めることができる。また、座標平面について理解し、平面上の 2 点間の距離を求めることができる。	2
		2 内分点・外分点	○	○	○	線分の内分・外分の意味を理解し、数直線上や平面上の内分点・外分点の座標を求めることができる。また、三角形の重心の座標を求めることができる。	3
		3 直線の方程式	○			直線の傾きと切片について理解し、1 点と傾きや、2 点が与えられたときの直線の方程式を求めることができる。	2
		4 2 直線の関係	○			2 直線の交点の座標が方程式を連立して求められることを理解する。また、平行・垂直な 2 直線の方程式の間に成り立つ関係について理解し、それらを用いて直線の方程式を求めることができる。	3
		単元テスト⑤	○	○	○		1
		2 節 円の方程式					
		1 円の方程式	○			与えられた条件から円の方程式を求めたり、円の方程式から円の中心の座標と半径を求めたりすることができる。	2
		2 円と直線	○	○		円と直線の共有点の座標を求めることができる。また、円と直線の共有点の個数について、2 次方程式の判別式の符号と対応していることを理解する。	3
		単元テスト⑥	○	○	○		1
	11	3 節 軌跡と領域					
		1 軌跡	○	○	○	軌跡について理解し、与えられた条件から軌跡の方程式を求めることができる。	1
		2 不等式の表す領域	○	○		不等式が表す領域を図示したり、領域を不等式に表したりすることができる。	3
		3 連立不等式の表す領域	○	○		連立不等式が表す領域を図示することができる。また、それを活用することができる。	2
		単元テスト⑦	○	○	○		1
		(後期中間考査)					0
	12	3 章 三角関数					
		1 節 三角関数					
		1 一般角	○			角の概念を一般角まで拡張することについて理解する。	1
		2 弧度法	○	○	○	弧度法の意味を理解し、弧度法による扇形の弧の長さや面積を求めることができる。	1
		3 三角関数	○			三角関数の定義を理解し、一般角の三角関数の値を求めることができる。	1
		4 三角関数の相互関係	○	○		一般角の三角関数の相互関係が成り立つことを理解する。	2
		5 三角関数の性質	○			三角関数の性質を用いて、三角関数の値を求めることができる。	1
		6 三角関数のグラフ	○	○	○	三角関数のグラフの性質を理解し、そのグラフをかくことができる。	2
		7 三角関数を含む方程式	○			単位円やグラフを利用して、三角関数を含む方程式を解くことができる。	2
		単元テスト⑧	○	○	○		1
		(学年末考査)					0
	3	2 節 加法定理					
		1 加法定理	○	○	○	三角関数の加法定理を理解し、それらを用いて三角関数の値を求めることができる。	2
		2 2 倍角の公式	○			2 倍角の公式を理解し、それらを用いて三角関数の値を求めることができる。	1
		3 三角関数の合成	○	○	○	三角関数の合成を理解し、それらを用いて三角関数を合成することができる。	1
		単元テスト⑨	○	○	○		1
		防災学習		○	○		1

科目名	化学基礎	履修学年	第2学年	
		履修形態	必修	
		履修単位	2単位	
使用教科書 (出版社)	高等学校 新化学基礎 第一学習社			
使用教材 (出版社)	新課程版 ネオパルノート化学基礎 第一学習社			
学習の目標				
日常生活と社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・原則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
教科担当者から				
化学基礎では、物質の構成や成り立ちを学び、ミクロの世界について考えます。ノートは黒板に書いたことを写すだけではなく、自分が重要だと思ったことをメモし、自分だけの勉強ノートを作り上げましょう。また、提出物などは必ず期日までに提出するようにしてください。わからないことがあれば、早い段階で疑問を解消できるように、遠慮なく聞いてください。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規準	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の観察			○	
課題の取り組み			○	
提出物	○		○	
定期考査	○			
レポート		○		
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B	C	
評価割合（％）	100～85	84～30	29～0	
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4	序章 化学と人間生活					
	4	第1章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素 ①物質の分離(1) ②物質の分離(2) ③物質を構成する元素	○	○	○	・物質の分離・精製や元素の確認などの実験を通して、単体、化合物及び混合物について理解するとともに、実験における基本操作と物質を探究する方法を身に付ける。	8
	5		○			・粒子の熱運動と温度及び物質の三態変化との関係について理解する。	
	6	④元素の確認 ⑤物質の三態⑥原子のなりたち ⑦同位体とその利用 ⑧原子の電子配置 ⑨元素の周期律と周期表	○			・原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解する。	6
	6		○			・元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。	
	6	前期中間調査					1
	7	第2節 化学結合 ①イオン(1) ②イオン(2) ③イオン結合 ④イオンからなる物質	○	○		・イオンの生成を電子配置と関連づけて理解する。	4
			○			・イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解する。	
	8	⑤共有結合(1) ⑥共有結合(2) ⑦分子の極性 ⑧分子間に働く力 ⑨分子からなる物質	○	○		・共有結合を電子配置と関連づけて理解する。	6
			○	○		・分子からなる物質の性質を理解する。	
後期	8	前期期末調査					1
	9	⑩共有結合の結晶 ⑪金属結合と金属結晶 第2章 物質の変化	○			・金属結合及び金属の性質を理解する。	
				○		・結合様式の異なる物質の性質の違いを実験により比較し、物質の性質と化学結合の関係について理解する。	8
	10	第1節 物質量と化学反応式 ①原子量 ②分子量・式量 ③物質量と粒子の数 ④物質量と質量 ⑤物質量と気体の体積		○	○	・物質量と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。	6
	11		○	○	○		
		⑥溶解と濃度 ⑦化学反応式(1) ⑧化学反応式(2) ⑨化学反応の量的関係	○	○	○	・化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。	6
		後期中間調査					1
	12	第2節 酸・塩基とその反応 ①酸と塩基 ②酸・塩基の強弱 ③水素イオン濃度とpH ④pHの測定 ⑤中和と塩 ⑥中和の量的関係 ⑦中和滴定 ⑧中和滴定曲線	○		○	・酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。	8
	1						6
		学年末調査					1
	2	第3節 酸化還元反応 ①酸化と還元 ②酸化数 ③酸化剤と還元剤(1) ④酸化剤と還元剤(2) ⑤金属のイオン化傾向 ⑥金属の反応性 ⑦電池 ⑧電気分解 防災教育	○	○	○	・酸化と還元が電子の授受によることを理解する。 また、酸化還元反応と日常生活や社会とのかかわりについて理解する。	7
	3						
			○	○		実施時期未定	1

科目名	体育【保健体育】	履修学年	第2学年	
		履修形態	必修	
		履修単位	2単位	
使用教科書 (出版社)	現代高等保健体育（大修館書店）			
使用教材 (出版社)	独自プリント等			
学習の目標				
1年次の経験を生かし自ら学ぶ種目を選択し、学習目標、課題解決方法を考えながら実践することで運動技能や理解を深めていきます。また、それらの学習経験を通して生涯を通じて継続的に運動を実践する資質や能力、公正・協力・責任などの態度を身につけていきます。				
教科担当者から				
仲間と協力して目標設定、学習計画などに取り組み、みなさんが主体的に授業を進めていきます。個人練習やグループワークなど学習方法はさまざまです。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	運動の特性に応じた技能を身につけ、習得した技能を発表したり、チームの作戦を生かした攻防を展開してゲームが出来るようにする。種目の特性に応じた技術の構造や技能を高めるための効果的な練習の仕方、ルール、発表会や競技会の企画や運営の仕方を理解している。	自分やチームの能力に応じた課題を設定し、その解決を目指して、練習の仕方やゲームの仕方を工夫する。	練習やゲームで積極的に自分の役割を果たし、協力して教え合ったり、励ましあったりしようとするとともに、公正な態度をとろうとする。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の 観 察	○	○	○	
提出物	○	○	○	
技能試験	○			
筆記試験	○		○	
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B	C	
評価割合（％）	100～85	84～30	29～0	
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準								
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間	
			知	思	主			
前期	4	体育理論「H」 集団行動 体づくり運動「A」 新体力テスト	○	○	○	体力トレーニングの意義について理解を深め、目的に応じて活用できるようにする。 隊列を乱さず集団行動できるようにする。 体ほぐしの運動と体力を高める運動を通して運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	13	
	5 6 7 8 9	器械運動「B」 選択Ⅰ（球技「E」）	○	○	○	技能・知識・理解を深め、仲間と協力しながら自己の学習課題を解決する。 自己の能力に応じて技を選択し、新たな技の練習を重ねて習得し、演技を発表する。	8	
		ダンス「G」	○	○	○	技能・知識・理解を深め、仲間と協力しながら自己の学習課題を解決する。 手本の踊りを見て学び、リズムに合わせて全身を使って踊ることができるようになる。	4	
		陸上競技「C」 （強歩遠足の練習を含む）	○	○	○	技能・知識・理解を深め、仲間と協力しながら自己の学習課題を解決する。 自己の能力に応じて運動の技能を高め、競技したり、記録を高めたりすることができるようになる。	6	
		強歩遠足	○	○	○	技能・知識・理解を深め、仲間と協力しながら自己の学習課題を解決する。 仲間と励まし合いながら目標達成に向けて努力する。	2	
		後期	選択Ⅱ（球技「E」）					6
体育理論「H」 選択Ⅲ（球技「E」）	○		○	○	技能・知識・理解を深め、仲間と協力しながら自己の学習課題を解決する。	8		
体育理論「H」 選択Ⅳ（球技「E」）	○		○	○	技能・知識・理解を深め、仲間と協力しながら自己の学習課題を解決する。	8		
スポーツ大会						8		
防災学習					1			

科目名	保健	履修学年	第2学年	
		履修形態	必修	
		履修単位	1単位	
使用教科書 (出版社)	現代高等保健体育（大修館書店）			
使用教材 (出版社)	現代高等保健体育ノート（大修館書店）			
学習の目標				
生涯の各段階における健康についての課題を理解し、国の保健・医療制度や機関を適切に活用しながら対応している知識や力を身につけていきましょう。また、社会生活における健康の保持増進には、環境や食品、労働などが深くかかわっていますから、その活動や対策についても理解を深めていきましょう。				
教科担当者から				
学習方法はさまざまです。知識や理解を深め、それらをもとにグループワークなどを行い、自分の意見を述べたり仲間の意見を聞くことであらゆる視点から自分の健康や社会生活をみつめていきましょう。また、調べ学習をしてそれを発表するなど、仲間とのかかわりを大切にしていきます。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	健康を保持増進するための課題の解決に役立つ自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項を理解している。	健康を保持増進するための課題解決を目指して、知識を活用して総合的に考え、判断することを表現できる。	生涯の各段階と健康、社会生活における健康の保持増進について理解し、自らの健康を保持増進できるよう関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の 観 察	○		○	
提出物	○	○	○	
レポート		○	○	
単元テスト	○	○		
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B	C	
評価割合（％）	100～85	84～30	29～0	
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4	2 単元 安全な社会生活 オリエンテーション					1
		04 応急手当の意義とその基本	○	○	○	応急手当の意義について説明できる。	4
		05 日常的な応急手当	○	○	○	日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について説明できる。	
		06 心肺蘇生法	○	○	○	心肺蘇生法の方法と手順について説明できる。	
		単元テスト	○	○			1
	5	3 単元 生涯を通じる健康					
	6	01 ライフステージと健康	○	○	○	ライフステージと健康の関連について説明できる。	7
	7						
	8	02 思春期と健康	○	○	○	思春期における体の変化を、女性と男性に分けて説明できる。	
		03 性意識と性行動の選択	○	○	○	性意識の男女差について例をあげて説明できる。	
		04 妊娠・出産と健康	○	○	○	妊娠・出産の過程における健康課題について説明できる。	
		05 避妊法と人工妊娠中絶	○	○	○	人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。	
	8	単元テスト	○	○			1
後期	9	06 結婚生活と健康	○	○	○	結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動をあげることができる。	6
	10	07 中高年期と健康	○	○	○	加齢にともなう心身の変化について例をあげて説明できる。	
		08 働くことと健康	○	○	○	働くことの意義と健康とのかかわりについて説明できる。	
		09 労働災害と健康	○	○	○	労働災害の種類とその原因について例をあげて説明できる。	
		10 健康的な職業生活	○	○	○	職場がおこなう健康に関する取り組みについて例をあげて説明できる。	
	10	単元テスト	○	○			1
	11	4 単元 健康を支える環境づくり					4
	12	01 大気汚染と健康	○	○	○	大気にかかわる地球規模の健康問題について例をあげて説明できる。	
		02 水質汚濁、土壌汚染と健康	○	○	○	大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生のしくみについて説明できる。	
		03 環境と健康にかかわる対策	○	○	○	環境汚染による健康被害を防ぐ方法について説明できる。	
		04 ごみの処理と上下水道の整備	○	○	○	ごみの処理の現状やその課題について説明できる。	
	12	単元テスト	○	○			1
	1						7
	2	05 食品の安全性	○	○	○	食品の安全性と健康とのかかわりについて説明できる。	
	3	06 食品衛生にかかわる活動	○	○	○	食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について説明できる。	
		07 保健サービスとその活用	○	○	○	保健行政の役割について例をあげて説明できる。	
		08 医療サービスとその活用	○	○	○	わが国における医療保険のしくみについて説明できる。	
		09 医薬品の制度とその活用	○	○	○	医薬品の正しい使用法について説明できる。	
		10 さまざまな保健活動や社会的対策	○	○	○	国際機関・民間機関などの保健活動について例をあげて説明できる。	
		11 健康に関する環境づくりと社会参	○	○	○	健康の保持増進のための環境づくりについて説明できる。	
	2、3	単元テスト	○	○			1
		防災学習					1

科目名	英語コミュニケーションⅡ		履修学年	第2学年
			履修形態	必修
			履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	VISTA English Communication Ⅱ (三省堂)			
使用教材 (出版社)	プレップイングリッシュ改訂版 高校英語の基礎作り (旺文社) 新ユメタン0 中学修了～高校基礎レベル (アルク)			
学習の目標				
「英語コミュニケーションⅠ」の学習内容の一層の習熟を図りながら、生徒の総合的なコミュニケーション能力を育てる指導を行うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。「聞くこと」「読むこと」「話すこと」(やりとり)「話すこと」(発表)「書く」の5つの領域を総合的に関連づけ、技能向上を目指す。				
教科担当者から				
英語は、世界で一番多くの国と地域で使われている言葉です。英語を使えるようになると、世界中を旅したり、自分の世界を広げたりすることができます。英語はどちらかと言うと、体育などの実技教科に似ており、たくさん使って(＝練習をする)ことで上達していきます。授業を楽しみながら、ミスを恐れずにどんどん英語を使ってみましょう。評価は考査だけでなく、パフォーマンステストや普段の授業での取り組みも見ていきます。お互い助け合いながら頑張っていきましょう。Join the class、try the class and enjoy the class!				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
規 準	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けてい		・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	◎ 重視するところ			
学習の状況の観察			◎	◎
課題の取り組み				◎
提出物	◎			◎
定期考査	◎		◎	
パフォーマンステスト	◎		◎	
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合(%)	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準									
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点					学習のねらい（評価のポイント）	時間
			L	R	Sや	S発	W		
前期	4	1年生の復習		○		○	○	1年生の復習	2
		Lesson 1 World Dance Performances	○	○	○			さまざまな伝統舞踊の由来やパフォーマンスにこめられた意味について、理解して考えを深めることができる。	10
	5	LESSON 2 A Piece of Cake	○	○	○			英語と日本語の慣用句について、理解して考えを深めることができる。	2
		<前期中間考査>							1
	6	LESSON 2 A Piece of Cake	○	○	○			英語と日本語の慣用句について、理解して考えを深めることができる。	8
		Lesson 3 Quokka	○	○			○	オーストラリアの有袋類の動物クオッカについて、理解して考えを深めることができる。	5
	8	Lesson 3 Quokka	○	○			○	オーストラリアの有袋類の動物クオッカについて、理解して考えを深めることができる。	3
		<前期期末考査>	○				○	使役動詞と知覚動詞の使い方を確認する	3
	9	(パフォーマンステスト)							1
		(防災学習)							1
		Lesson 4 Designing Stamps	○	○		○	○	切手／英語学習／切手についての発表へのコメントについてやりとりしたり、家事について感じていること／日本の切手についての紹介を書いて発表することができる。	1
後期	10	Lesson 4 Designing Stamps	○	○		○	○	切手／英語学習／切手についての発表へのコメントについてやりとりしたり、家事について感じていること／日本の切手についての紹介を書いて発表することができる。	8
			○			○	○	形式主語と形式目的語の使い方を確認する	3
	11	LESSON 5 Mont-Saint-Michel	○	○	○		○	モン・サン・ミシェル／趣味／日本の世界遺産についてやりとりしたり、過去の旅行先について書いて発表することができる。	2
		<後期中間考査>							1
	12	LESSON 5 Mont-Saint-Michel	○	○	○		○	モン・サン・ミシェル／趣味／日本の世界遺産についてやりとりしたり、過去の旅行先について書いて発表することができる。	6
			○	○			○	現在完了・過去完了の使い方を確認する。	4
	1								
	2	<学年末考査>							1
		(パフォーマンステスト)						見学旅行に関するプレゼンを行う	4
	3								
		総復習		○			○		2

科目名	論理・表現Ⅰ		履修学年	第2学年
			履修形態	必修
			履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	NEW FAVORITE English Logic and ExpressionⅠ（東京書籍）			
使用教材 (出版社)	ブレッピングリッシュ改訂版 高校英語の基礎作り（旺文社） 新ユメタン0 中学修了～高校基礎レベル（アルク）			
学習の目標				
多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、 1. 文脈にあった質問や答えを続けることで、情報や考え、気持ちなどを、やり取りを通して伝え合うことができる。 2. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、話して伝えることができる。 3. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、書いて伝えることができる。				
教科担当者から				
『話すこと[やりとり・発表]、書くこと』を中心に、文字通り「英語を使って表現する」方法を学んでいきます。まず、教科書を用いながら、表現の基礎となる実用的な単語と文法を学びます。また、教科書で学んだことを活かしながら、個人やグループでの表現活動を行う予定です。調査だけではなく、単元テスト、パフォーマンステスト、活動への取り組み、発表の出来などを総合的に判断していきます。間違いを恐れず、楽しみながら英語を学んでいきましょう。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
規準	[知識] 褒める、勧める、断るときの表現の形・意味・用法を理解している。 [技能] 学んだ知識を用いて、褒める、勧める、断るときの表現を適切に運用している。また、自分の考えや気持ちなどを伝え合う基本的な技能を身につけている。		・場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、相手を褒めたり、物事を勧めたりしている。また、勧誘内容を理解し、提案を断ったりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。	・自身の活動を振り返りながら、適切な表現を用いて、相手を褒めたり、物事を勧めたりするために、繰り返し活動に取り組もうとしている。また、勧誘内容を理解し、提案を断ったりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。
評価方法	◎ 重視するところ			
学習の状況の観察			◎	◎
課題の取り組み				◎
提出物	◎			◎
定期考査	◎		◎	
パフォーマンステスト	◎		◎	◎
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容				学習のねらい（評価のポイント）	時間
			Sや	S発	W		
前期	4	ガイダンス、1年生の復習			○	1年生の復習	2
	5	Lesson 1 初めての食事	○	○	○	褒める、勧める、断るときの表現	6
		LESSON 2 道に迷う	○	○	○	提案する、依頼する、道順を説明するときの表現	6
		＜前期中間考査＞					1
	6	LESSON 3 人物紹介	○	○	○	身近な人を紹介する、聞き手や読み手の注意を引くときの表現	6
	7	Lesson 4 体調が悪い	○	○	○	体調を伝える、体調を尋ねる、指示・アドバイスをするときの表	6
	8	Lesson 5 買い物	○	○	○	描写する、相づちを打つときの表現	6
	9	＜前期期末考査＞					1
		(パフォーマンステスト)					1
		(防災学習)					1
		Lesson 6 行ってみたい場所	○	○	○	希望を述べる、理由を述べるときの表現	6
後期	10	Lesson 7 イベントに誘われる	○	○	○	誘う、誘いを受ける、誘いを断るときの表現	6
	11	LESSON 8 スクールカウンセラーに相談	○	○	○	状況を説明する、手助けを申し出る、助言・提案をする、お礼や感謝を伝えるなどの表現	6
		＜後期中間考査＞					1
	12	Lesson 9 お気に入りの紹介	○	○	○	映画や本のあらすじを要約する、登場人物などを紹介する、感想や批評を述べるときの表現	6
	1	Lesson 10 待ち合わせに遅刻	○	○	○	謝る、許す、励ますときの表現	6
	2	＜学年末考査＞					1
	3						
		総復習	○	○	○		2

科目名	家庭総合		履修学年	第2学年
			履修形態	必修
			履修単位	2単位
使用教科書 (出版社)	Creative Living『家庭総合』で生活をつくろう（大修館書店）			
使用教材 (出版社)	なし			
学習の目標				
- 生きていく上で必要な生活の実践力を身につける。 - 人の一生と家族・家庭、衣生活、消費生活、高齢社会、持続可能な社会に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。 - 家庭や地域の生活課題を主体的に解決する能力と実践的な態度を身につける。				
教科担当者から				
- 日常生活と密接した内容を学習します。 - 授業で行う実習だけでは生活に関する技術は身に付きづらいので、授業で学習したことを家庭でも繰り返し実践すること。 - 定期考査（2回）の他に、提出物（期限厳守）や授業態度等の評価も高いので、毎回のプリント提出や小テストなど意欲的に取り組むこと。 - 授業中に積極的に発言し、板書をノートにきれいに記入すること。 - プリントには自分の考えを問う事項もあるので、自分の意見を具体的に書くこと。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	- 授業で学んだ内容を理解し、知識として定着されているか。 - 家庭生活を築いていく上で必要な基本的な知識や技術、マナーなどを理解しているか。 - 調理実習において基礎的・基本的な技術を身に付けることができるか。 - 指定された作品を丁寧にきれいに作ることができたか。	- 家庭や地域の生活に関心を持ち、生活問題について考え、解決に向けて取り組んでいるか。 - 自分の考えを文章で表現したり言葉で表現することができるか。	- 自分の生活を振り返りながら授業に参加しているか。 - 板書をノートに写す、授業中の発言などを積極的に行っているか。 - グループワークに積極的に参加しているか。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の観察			○	
実習の取り組み	○		○	
グループワークへの取り組み		○	○	
提出物	○	○	○	
定期考査	○	○		
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準								
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間	
			知	思	主			
前期	4	家庭科を学ぶにあたって			○	・学習の意義を理解し、目的意識をもつ。	1	
		第9章 食生活のマネジメント 1 体と心を満たす食事 2 イエローカードかも？ 3 日本の食文化“WASHOKU”	○		○	・五大栄養素と代表的な食品について理解している。 ・自分の食生活を点検し、見直すことができる。	27	
			○	○	○	・日本や世界のさまざまな食文化の事例を通じて、食文化がその土地の風土の中で長年にわたって形成されたものであることを理解している。		
			○	○	○	・日本食品標準成分表を活用した食事の栄養価計算ができる。		
	5	4 栄養バランスのよい食事 5 炭水化物を摂る 6 脂質を摂る	○	○	○	・栄養素の種類と機能をふまえ、食品を組み合わせる具体的な献立をまとめたり、発表したりしている。		
			○	○	○	・食品を選択するポイントを理解している。 ・健康や安全に配慮した食生活について考えようとしている。 ・近年の食品の安全性について思考を深めることができる。		
	6	7 たんぱく質を摂る 8 無機質を摂る 9 ビタミンを摂る 10 豊かな食卓に	○	○	○	・日本の食糧事情について、世界との関係から考えようとしている。	7～8	
			○	○	○	・食料自給率を上げていくためにできることを考え、まとめることができる。		
			○	○	○	・これまでに習得した栄養・食品に関する知識をいかして、献立を作成できるようにする。 ・食品の調理上の性質をいかした調理法について理解している。 ・食生活の多様化や食環境の変化に興味をもち、調理実習に取り組んでいる。		
	後期	9	第4章 子どもの生活と子育てのマネジメント 1 子どもの世界を知る 2 命の誕生 前期期末考查 3 こんにちは、赤ちゃん 【妊婦体験実習】 【保育人形実習】	○		○	・乳児期の「愛着」の形成や子どもの人格形成にかかわる親の役割について考えようとしている。 ・妊娠・出産までの過程と胎児の成長発達の関係について理解している。 ・新生児の生理的な特徴を理解し、それに応じた対応ができる力をもっている。 ・妊婦体験実習では、妊婦の立場になり考えることができる。 ・保育人形実習では、新生児の抱き方や新生児の特徴について主体的に知ろうとしている。	24
		10	4 好奇心いっぱい！ 5 子どものいる暮らし 6 子どもの仕事は「遊び」 【子どものおもちゃ作り】 7 子どもの健康と事故 【子ども園実習】	○		○	・幼児期特有の心身の成長・発達の特徴を理解している。 ・ことばを発達させることばがけ、感情を発達させる気持ちの交流など、子どもの立場に立って実践することができる。 ・子どもにとっての遊びの意義と子どもの遊びについて関心をもとうとしている。	
○				○	○	・子どもの病気への対応、安全確保についての適切な援助方法について考えようとしている。		
○				○	○	・保育実習に向けた遊びの計画をたてることができる。 ・保育実習で子どもと適切にかかわることができる。 ・乳幼児と積極的に触れ合おうとしている。 ・乳幼児との接し方、コミュニケーションの取り方について理解している。		
11		8 親になるということ 9 社会で子育て	○	○	○	・近年の子どもを取り巻く環境の変化や子育てをする保護者の課題について理解している。		
			○	○	○	・育児不安や児童虐待などの事例をふまえ、それらの原因および解決方法をまとめたり、発表したりしている。		
		12～1	第11章 住生活のマネジメント 1 住まいを知ろう 2 日本の住文化を知ろう 3 住む人の生活と住まい 4 心地よく暮らすために 5 安全に安心して暮らす 6 住まいを長く使う 7 住環境をみつめてみよう 学年末考查	○		○	・住まいの機能について理解している。	12
				○	○	○	・現代日本社会の気候風土に合わせた住まいの工夫について調べたことを、まとめることができる。	
				○	○	○	・平面図が読み取れ、住空間の計画について検討できる。	
				○	○	○	・健康に配慮した衛生的な住まいや室内環境の整備に必要な基礎的技術を身に付けている。	
	○			○	○	・安全に配慮した住まいや室内環境の整備などについて、地域の状況と結びつけて、考えをまとめることができる。		
	○			○	○	・住まいの寿命について、諸外国の事例を調べたりして、日本の現状と比較しながら、メンテナンスの重要性について考えを深めたり、発表したりしている。		
	○			○	○	・自然環境や社会環境と住生活の関連などについて調べたり、考えを深めたりしている。		
	2	第6章 共生社会をつくる 1 地球が危ない 2 ライフスタイル思考 3 めざせ！持続可能な社会	○		○	・大量生産、大量消費、大量廃棄の生活が環境へ与える負荷を理解している。	3	
			○	○	○	・持続可能な社会を実現するために必要な法律や制度について理解している。 ・環境に調和したライフスタイルのありかたについて思考を深め、考えをまとめたり、発表したりしている。		
			○	○	○	・環境負荷の少ない生活の実践について考えようとしている。		
	3	最終章 生活をデザインする 生活の主人公になろう 防災学習	○	○	○	・自分の夢や希望を実現するためには職業生活・家庭生活・地域社会生活・経済生活など、さまざまな視点で人生をとらえる必要があることについて考えを深め、意見交換したり、考えたことを発表したりしている。	2	
					○		1	

科目名	簿記	履修学年	第2学年	
		履修形態	選択	
		履修単位	4単位	
使用教科書 (出版社)	新簿記(実教出版)			
使用教材 (出版社)	最新段階式簿記検定模擬問題集3級(実教出版) 令和6年度版 全商簿記実務検定 模擬試験問題集 3級			
学習の目標				
企業における取引の記録・計算・整理に関する知識と技術を習得し、簿記の基本的な仕組みについて理解するとともに、適正な会計処理を行う能力と態度を育てる。				
教科担当者から				
・授業では教科書、問題集、ファイル、電卓、赤ボールペン、定規を使用します。 ・頻繁に問題演習を行います。積極的に取り組むようにしてください。 ・学校外における学修の単位認定が行われています。全国商業高等学校協会主催簿記検定2級合格で2単位、1級で3単位が認定されます。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	簿記に関する基礎的・基本的な知識・技術を身に付け、適正な会計処理を行うことを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	適正な会計処理を行うことを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術をもとに、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	簿記について関心を持ち、適正な会計処理を行うことを目指して主体的に取り組もうとするとともに会計処理を行う実践的な態度を身に付けている。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の観察		○		
課題の取り組み		○	○	
提出物	○		○	
定期考査	○	○		
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B	C	
評価割合(%)	100～85	84～30	29～0	
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準						
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			時間
			知	思	主	
前期	4・5	第1編 簿記の基礎 第1章 簿記の基礎 第2章 資産・負債・純資産と貸借対照表 第3章 収益・費用と損益計算書 第4章 取引と勘定 第5章 仕訳と転記 第6章 仕訳帳と総勘定元帳 第7章 試算表 第8章 精算表 第9章 決算	○			24
			○	○		
				○		
				○		
		前期中間考査				
後期	6～9	第2編 取引の記帳（その1） 第10章 現金・預金などの取引 第11章 商品売上の取引 第12章 掛け取引 第13章 手形の取引 第14章 有価証券の取引 第15章 その他の債権・債務の取引 第16章 固定資産の取引 第17章 個人企業の資本と税金 第18章 販売費および一般管理費と税金の取引	○	○		12
			○	○		
				○		
				○		
			○			
				○		
			○			
		前期期末考査				1
	10	第3編 決算（その1） 第19章 決算整理（その1） 〈言語活動〉分析・レポート・討論 第20章 8桁精算表 第21章 帳簿決算と財務諸表の作成（その1）		○		17
			○			
			○			
	11	第4編 会計帳簿と帳簿組織 第22章 会計帳簿 第23章 伝票		○		10
			○			
				○		
	12	後期中間考査 第5編 決算（その2） 第24章 決算整理（その2） 第25章 財務諸表の作成（その2） 〈言語活動〉分析・レポート・討論		○		28
			○			
				○		
1・2		第7編 本支店会計 第30章 本支店取引 第31章 本支店の財務諸表の合併	○		○	20
			○			
				○		
		学年末考査				1
3		発展編 株式会社の取引 第32章 株式会社の取引（その1） 第33章 株式会社の取引（その2）		○		27
			○			
			○			
				○		
				○		
		防災学習			○	1

科目名	情報処理		履修学年	第2学年
			履修形態	選択
			履修単位	3単位
使用教科書 (出版社)	最新情報処理 Advanced Compyuting (実教出版)			
使用教材 (出版社)	Excelで学ぶ全商情報処理検定テキスト 2級ビジネス情報部門 (実教出版)			
学習の目標				
ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し表現する知識と技術を習得し、情報の意義や役割について理解するとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てることをねらいとします。				
教科担当者から				
・授業では教科書を使用した学習だけではなく、コンピュータを使った実践的な学習を行います。 ・実習については、積極的に行い、課題をきちんと提出してください。実習については、成果だけではなく過程における努力も評価します。 ・9月と1月には、全国商業高等学校協会主催情報検定を受験することが可能になります。 ・学校外における学修の単位認定が行われています。全国商業高等学校協会主催情報処理検定2級合格で2単位、1級で3単位が認定されます。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスの諸活動における情報の活用を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用することを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	情報の収集・処理・分析・表現について関心を持ち、ビジネスの諸活動において情報を活用することを目指して主体的に取り組もうとするとともに、情報を活用する実践的な態度を身に付けている。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の観察		○	○	
課題の取り組み	○			
提出物			○	
定期考査	○	○		
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～85	84～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期		オリエンテーション				コンピュータ教室でのマナーを理解する。 タイピングを習得する。	2
		1章 情報の活用と情報モラル	○			ビジネスの諸活動における情報の役割とコンピュータを利用した情報活用の重要性を学ぶ。	15
		1節 ビジネスと情報		○		情報化社会に参画するために個人が身に付けるべき情報モラルについて学ぶ。	
		2節 情報モラル 〈言語活動〉グループ討議・レポート作成	○			コンピュータや周辺機器の仕組みと、ソフトウェアの役割を理解し、目的に応じた機器の選択や利用ができる知識を身に付ける。	
		3節 ハードウェアとソフトウェア		○		情報通信ネットワークの概要と、ビジネスにおけるインターネットの様々な利用方法やその効果について学ぶ。	15
		2章 情報通信ネットワークとセキュリティ管理		○	○	情報通信ネットワークを利用したビジネス情報の検索と活用方法について学ぶ。	
		1節 情報通信ネットワークの概要		○	○	電子メールの利用方法について学ぶ。	
		2節 ビジネス情報の検索と収集	○			情報化社会に参画するために個人が身に付けるべきセキュリティ管理の方法について学ぶ。	
		3節 ビジネス情報の受信と発信		○		表計算ソフトウェアの特徴を理解し、基本操作ができるようにする。	20
		4節 セキュリティ管理の基礎 〈言語活動〉グループ討議・レポート作成	○			基本から応用までの様々な関数を利用できるようにするとともに、関数を利用して有用なビジネス情報を導き出すための技法をグラフを用いて表のデータをわかりやすく表現できるようにするため、グラフの基礎知識や作成方法を学ぶ。	
		3章 ビジネス情報の処理と分析		○	○	表のデータを目的に応じた利用しやすい形で取り出し活用するため、整列や検索の技法などを学ぶ。	
		1節 基本的な表の作成		○	○	目的に応じた適切な計算やビジネスにおける需要予測などの傾向をとらえる力を習得させる。	
		2節 関数を利用した表の作成			○	文書情報がコミュニケーションの重要な手段として、ビジネスの諸活動の中で果たされている役割や種類について理解させる。	
		3節 グラフの作成					
後期		前期期末考査					1
		4章 ビジネス文書の作成	○			図形や画像情報の活用により情報の簡潔化、明瞭化、印象の強化などの効果が期待できることについて理解させる。	20
		1節 ビジネス文書と表現		○		ワープロの利用に関する知識と技術を習得させ、文書の構成、構成要素の配置、文書作成の要領について理解させるとともに、基本的な社内文書や社外文書を取り上げて、作成に関する知識と技術を習得させる。	
		2節 図形と画像の活用			○	ワープロの多様な機能を利用して、表やグラフなどを含む応用的な文書の作成に関する知識と技術を習得させる。	
		3節 基本文書の作成				プレゼンテーション活動の目的や方法について理解させる。	17
		5章 プレゼンテーション		○			
		1節 プレゼンテーションの技法					1
		学年末考査					1
		2節 ビジネスとプレゼンテーション 〈言語活動〉グループ討議・レポート作成			○	プレゼンテーションソフトウェアを活用した実習を通して、発表用の資料の整理や作成などの準備から発表までのプレゼンテーション技法を習得させる。	13
		防災学習			○	・防災をマーケティングの視点から主体的に学習することができる。	1

科目名	探究基礎		履修学年	第2学年
			履修形態	選択
			履修単位	4単位
使用教科書 (出版社)				
使用教材 (出版社)				
学習の目標				
様々な事象に関わり、教科横断的な見方・考え方を組み合わせ、探究の過程を通して、課題を解決するために必要な基本的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能を身に着けるようにする。 (2) 多角的、複合的に事象を捉え、理科などに関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高める。 (3) 様々な事象や課題に好奇心をもって向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や論理的な態度を養う。				
教科担当者から				
様々な事象に好奇心を持って取り組み、調査・観察を行い、丁寧に記録を残しましょう。また、一つのことで多くの事が関わっていることを常に考え、今まで学習した知識を活用し、探究の結果をまとめ表現できるようになってください。何事にも粘り強く、好奇心と感謝の心を大切に授業に臨んでください。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規 準	様々な事象についての探究などを行うことを通して、探究の意義、探究の過程などの理解が図れた。 観察、実験、調査等についての基本的な技能、事象を分析するための基本的な技能、探究した結果をまとめ、発表するための基本的な技能などが身に付けている。	多角的、複合的に事象を捉え、課題を設定し、数学的な手法や科学的な手法などを用いて思考判断する力を身に付けている。 探究の過程を遂行させ、探究した結果などを適切に表現させることができた。	様々な事象や課題に知的的好奇心をもって向き合い、興味・関心に基づいて課題を設定し、粘り強く考え行動し、課題の解決に向けて挑戦しようとしている。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の 観 察	○			
課題の取 組 み		○	○	
提出物		○	○	
定期考査				
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B		C
評価割合（％）	100～90	89～30		29～0
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4	オリエンテーション			○	授業の概要と今後の予定	1
	4	森林学習 ぼだ木の作成と管理		○		森林管理とキノコ栽培の関係を理解する ぼだ木の管理が理解する	4
		観察実習 観察眼を養う	○		○	生物のスケッチ方法、フィールドノートの使い方を習得する	4
		栽培実習 ソバ栽培計画		○	○	ソバ栽培の探究活動を振り返り、探究活動の計画を立てる	6
	5	森林学習 山菜を学ぶ	○		○	食することができる山菜を採集し分類することができる	4
		ソバ栽培 耕作			○	ソバ栽培に向けて畑の準備をおこなうことができる	8
	6	森林学習 森林構造の学習と記録	○	○		春の森を観察し、植物や昆虫の観察を行い、森の生態系を理解する	2
		表現方法 ICTを活用したまとめ		○	○	春の磯での海岸動物分類に取り組み、分類の基礎を理解する	4
		海洋学習 春の磯採集		○	○	干潟でのサンプリング、分類同定ができるようになる	4
		海洋学習 干潟の生態系		○		ICTによる遠隔授業（外部講師）で生態系を理解する	2
		環境学習 生物多様性学習	○				
		中間考査					
	7	ソバ栽培 播種			○	ソバの播種 栽培管理を随時おこなう	2
		森林学習 キノコ管理と夏の森		○	○	ぼだ木の管理と夏の森林観察を行い季節の移ろいを感じる	2
		海洋学習 ホエールウォッチング			○	近海に回遊する鯨類・鳥類の洋上観察を通して食物連鎖を理解する	2
		ソバ栽培 計測	○		○	ソバの形質調査ができる	4
	8	海洋学習 潮間帯の生物学	○			ICTによる遠隔授業（外部講師）で生態系を理解する	2
		海洋学習 潮間帯生物の観察		○	○	潮間帯の観察とレポートの作成をとおして、海洋環境を理解する	6
	9	湿原学習 標津湿原とアイヌ遺跡		○		湿原観察およびボー川史跡自然公園の自然を理解する	6
		栽培実習 収穫 計測	○		○	種子数、種子重測定し、データの集約ができる	6
		森林学習 キノコ管理と秋の森		○		キノコの観察 秋の森林観察を行い季節の移ろいを感じる	4
後期	10	森林学習 キノコ管理		○	○	収穫 ぼだ木管理を通して、菌類の生態的地位を理解する	6
		ソバ学習 畑の管理			○	翌年への準備	6
		湿原学習 標津湿原保全活動		○	○	トドマツ伐採 アロマオイルを通して、資源の有効利用を考える	4
		環境学習 野生動物学習	○			ICTによる遠隔授業（外部講師）	2
	11	湿原学習 標津湿原保全活動		○	○	トドマツ伐採 アロマオイルを通して、資源の有効利用を考える	12
		森林学習 キノコ管理			○		2
		探究活動 探究の方法		○		探究活動について	2
		環境学習 野生動物学習	○			ICTによる遠隔授業（外部講師）で生態系を理解する	4
	12	探究活動 技術習得	○	○		情報機器を用いたデータ整理、表現法の習得	12
	1	博物館学		○		ICTを活用した博物館学習より博物館の役割を理解する	2
	2	森林学習 樹液		○		樹液の採集・濃縮、外部講師による授業で生態系を理解する	10
	3	冬の観察 アイスフィッシング		○	○	アイスフィッシング 氷の下の世界を覗くことで生態系を学習する	2
		森林学習 樹液		○		樹液の採集	2
		防災学習		○	○	自然と災害を学ぶことで災害から身を守る知識を高める	1

科目名	ホームルーム活動	履修学年	第2学年					
		履修形態	必修					
		履修単位	1単位					
使用教科書 (出版社)	なし							
使用教材 (出版社)	独自のプリント等							
学習の目標								
(1) 生徒一人一人がホームルームの役割を分担し、話し合いや委員会活動を通して、HR生活や学校生活の向上に努める態度を身につける。 (2) 好ましい人間関係を基盤に、生徒一人一人の社会的適応を図り、自己を生かす能力を育てるとともに、心身ともに健康で安全な生活習慣を身に付ける。 (3) 学業について自主的に学ぼうとする意欲や態度を身につける。								
学習内容								
学期	月	単元名／学習内容	学習のねらい				評価の観点	時間
前期	4	始業式後 頭髪服装検査	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
		学級裁量 (HR開き)	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
		HR役員選出	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
		学級裁量 (進路)	学業と進路					1
	5	生徒総会議案書審議	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
		キャリアパスポート	学業と進路					1
		学祭オリエンテーション	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
		スタディサプリ振り返り	学業と進路					1
	6	学級裁量 (学校祭)	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
		学級裁量 (学校祭)	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
		学級裁量 (学校祭)	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
		学級裁量 (学校祭)	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
	7	学級裁量 (学校祭)	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
		夏期休業前 LHR	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
後期	8	夏期休業明け LHR 頭髪服装検査	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
		学級裁量 (考査)	学業と進路					1
	9	学級裁量 (見学旅行準備)	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
		学級裁量 (見学旅行準備)	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
		学級裁量 (見学旅行準備)	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
		HR役員選出	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
	10	後期始業式後 頭髪服装	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
		学級裁量 (見学旅行準備)	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
		スタディサプリ振り返り	学業と進路					1
		学級裁量 (見学旅行準備)	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
		見学旅行 (結団式)	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
		科目選択説明会	学業と進路					1
	11	生徒総会議案書審議	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
		スポーツ大会原案審議	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1
12	スポーツ大会選手決め	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
	冬期休業前 LHR	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
1	冬期休業明け 頭髪服装検査	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
2	学級裁量 (進路)	学業と進路					1	
3	卒業式予行	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
	学級裁量 (1年の振り返り)	ホームルームづくり・学校の生活づくり					1	
		終業式	ホームルームづくり・学校の生活づくり				1	
							35	

科目名	総合的な探究の時間	履修学年	第2学年	
		履修形態	必修	
		履修単位	1単位	
使用教科書 (出版社)	なし			
使用教材 (出版社)	プリント等			
学習の目標				
(1) 教科横断的・総合的な学習や探究的な活動を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を身につける。				
(2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や学習活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。				
教科担当者から				
第2学年の総合的な探究の時間では、平和学習を中心に探究活動を行います。 10月の見学旅行では唯一の地上戦が行われた沖縄県へ行き、平和学習を行います。 11月には1年生の防災研修で学んだことを活かし、命の大切さについて探究し、プレゼンを行います。				
評価の観点・方法・割合				
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
規準	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。	
評価方法	○ 重視するところ			
学習の状況の観察	○	○	○	
課題の取り組み	○	○	○	
提出物	○	○	○	
定期考査				
観点別学習評価基準 A：十分満足できる状況 B：概ね満足できる状況 C：努力を要する状況				
観点別学習評価	A	B	C	
評価割合(%)	100～85	84～30	29～0	
観点別評価				
5	4	3	2	1
85%以上	84～70%	69～45%	44～30%	29%以下

学習内容及び評価基準							
学期	月	単元名／学習内容	評価の観点			学習のねらい（評価のポイント）	時間
			知	思	主		
前期	4	総合的な探究の時間オリエンテーション		○	○	探究活動の目的や年間の流れを理解し、自らの学びの目標を設定することができる。	1
	5	インターンシップ&オープンキャンパス 事前指導	○		○	インターンシップやオープンキャンパスに向けて必要な準備やマナーを理解し、積極的に参加する意識を持つ。	4
	7	インターンシップ&オープンキャンパス（まとめ）		○		体験を振り返り、自分の進路選択にどのように活かせるかを考え、まとめることができる。	3
	8	平和学習 オリエンテーション			○	平和学習の目的や意義を理解し、学びへの意欲を高めることができる。	1
	9	平和学習（見学旅行事前学習）	○		○	沖縄の歴史や平和に関する課題について調べ、理解を深めることができる。	11
後期	10	平和学習（スライド作成）		○		見学旅行で学んだことを整理し、スライドにまとめて他者に伝える表現力を養う。	10
	11	平和学習報告会（1日防災学校）		○	○	学んだことを発表し、他者の意見を取り入れながら自分の考えを深めることができる。	5